

EU Indicators

発表日:2018年9月12日(水)

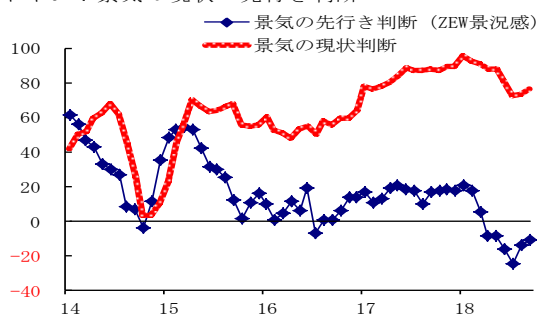
欧州経済指標コメント:9月ドイツZEW景況感

～貿易戦争や新興国不安を乗り越えて～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理 (Tel:03-5221-4527)

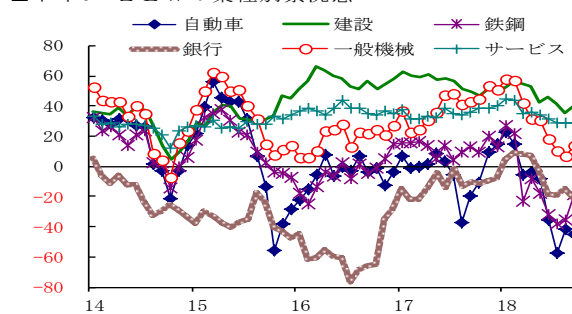
- 11日発表された9月のドイツZEW景況感（金融市場関係者の6ヶ月先の景況判断）は▲10.6と、6ヶ月連続で「悪化する」との回答が「改善する」との回答を上回ったが、マイナス幅が2ヶ月連続で縮小した。同時に発表された現状判断は+76.0と高水準を維持し、こちらは2ヶ月連続でプラス幅が拡大。その他の国・地域の先行きの業況判断は、米国（8月：▲9.3→9月：▲17.2）、イタリア（▲29.8→▲34.7）、英国（▲59.1→▲61.0）、日本（▲2.2→▲2.7）<前月対比の悪化幅が大きい順>のマイナス幅が拡大した一方、ドイツ（▲13.7→▲10.6）とフランス（▲8.0→▲1.6）に牽引され、ユーロ圏（▲11.1→▲7.2）のマイナス幅が縮小した。
- 業種別の業況判断は、自動車（▲41.3→▲45.2）と銀行（▲14.8→▲20.8）のマイナス幅が一段と拡大、公益（+9.0→+6.6）、化学（+12.7→+11.6）、サービス（+29.2→+28.9）のプラス幅が縮小した一方、鉄鋼（▲35.8→▲18.7）と保険（▲17.7→▲16.1）のマイナス幅が縮小、通信（+9.2→+20.5）、一般機械（+6.5→+13.8）、情報（+50.2→+57.2）、小売（+34.4→+39.8）、建設（+35.8→+39.9）、電機（+14.9→+16.3）のプラス幅が拡大した。
- 調査時期は8月27日～9月10日。米中貿易戦争への不安や新興国の動揺が熾り続けているものの、米欧間の貿易摩擦のエスカレートが一旦回避されていることなどが好感された模様。製造業受注や鉱工業生産など、過去1ヶ月に発表されたドイツのハードデータは全般に振るわなかったが、8月のIfo企業景況感が改善に転じるなど一部に明るさも広がっている。先行きの慎重姿勢は払拭されていないものの、一方的な業況悪化に歯止めが掛かった。

■ドイツ：景気の現状・先行き判断



出所：ZEW

■ドイツ：ZEWの業種別景況感



出所：ZEW

■ドイツ企業景況感（季節調整済み）

	2017		2018		2017		2018								
	3Q	4Q	1Q	2Q	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ZEW景況感（先行き）	14.8	17.9	14.4	-10.8	18.7	17.4	20.4	17.8	5.1	-8.2	-8.2	-16.1	-24.7	-13.7	-10.6
現状指数	87.0	88.4	92.7	85.3	88.8	89.3	95.2	92.3	90.7	87.9	87.4	80.6	72.4	72.6	76.0
Ifo景況感（総合）	104.0	105.1	104.3	102.2	105.3	105.0	105.0	104.3	103.5	102.4	102.4	101.9	101.7	103.8	—
現状指数	105.9	107.2	108.0	105.9	106.9	107.4	108.6	108.3	107.1	106.1	106.3	105.4	105.4	106.4	—
先行き指数	102.1	103.0	100.6	98.6	103.6	102.7	101.4	100.4	100.1	98.7	98.6	98.6	98.2	101.2	—
PMI製造業指数	59.3	62.1	60.0	57.0	62.5	63.3	61.1	60.6	58.2	58.1	56.9	55.9	56.9	55.9	—
サービス業指数	54.1	54.9	55.5	53.2	54.3	55.8	57.3	55.3	53.9	53.0	52.1	54.5	54.1	55.0	—

出所：ZEW、Ifo、IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

